

第1回滋賀県首長会議での議論概要

1. 日 時 平成27年8月4日（火）14時～16時40分
2. 場 所 大津市勤労福祉センター（大津市打出浜1-6）
3. 出席者 知事、16市町長（欠席：草津市長、甲良町長、多賀町長）

4. 概 要

（1）地方創生の取組みについて

【長浜市提案概要】

- 県内で最も早く6月に総合戦略を策定した。県と市町がしっかりと役割分担し、連携して地方創生に取り組むべきであり、この機会に前向きな姿勢で議論したい。
- 県の戦略(素案)策定の過程において、市町の意見を県へ伝える機会が無かったが、市町の意見を聞きとって、地域毎の課題や実情をしっかりと把握して策定を進め、具体的な施策の展開に反映させてもらいたい。

【滋賀県提案概要】

- 7月に戦略(素案)を策定したところであるが、市町の総合戦略を応援できるような戦略の策定を目指している。地域の実情に応じた取組を展開し、県の役割を果たしていきたい。

【市町長発言概要】

- 戦略を策定する上では、県と市町が同じ方向を向き、県と市町間のすり合わせをする必要がある。
- 県内には消滅可能性自治体と言われる自治体もあり、若者の人口流出を食い止めるためにも、農地転用による宅地開発など、地域特性に応じた対応をお願いしたい。
- 農地転用の規制により、企業誘致や宅地開発が進まない現状があるが、農地法の改正により県の許認可権が拡大されたことから、県として柔軟な対応をお願いしたい。
- 県には、広域行政を担う立場と、市町行政を補完する立場からの役割に期待している。中心となるのは市町であり、それぞれの良いところを伸ばしていくよう支援してもらいたい。
- 本社移転の税制優遇、技術者の確保、保育士や介護士等の確保、規制緩和等で、市町を応援してもらいたい。湖岸緑地の活用についても考えてほしい。
- 県と市町が一緒になって、日本遺産に認定された滋賀の遺産を活用していきたい。
- 地方創生はアイデアの出し合いであり、市町の知恵によく耳を傾けるとともに、国にしっかりと要望してもらいたい。
- 「障害のある子とない子が共に学び合う取組を推進します。」とされているが、特別支援学校を望む保護者や当事者のことを考慮し、再検討願いたい。
- CCRCについては、医療や介護の負担もあるので、市町の意見をよく聴いてもらいたい。
- 京都府では、府と全市町村がそろって中学卒業時までの医療費助成を実施される。滋賀県でも、子どもの医療費負担について一緒に考えてもらいたい。
- 次の世代を担う若い人達の意見にはヒントがある。若い世代とのディスカッションを通じ

て得られる意見を戦略に反映することが重要である。

【知事発言概要】

- 市町とのすりあわせが十分できるよう整理したい。齟齬がある部分はよく相談したい。今後、具体的なプロジェクトが出てくる中でも、対話を通じて地域の実情や課題を共有してまいりたい。
- 市町や様々な団体の皆さんと同じ方向性、危機感を持って、県と市町の役割を踏まえ、県としての役割を果たしていきたい。
- 農地の問題、湖岸緑地の活用なども、協議していきたい。日本遺産については本年度から施策を打っていく。滋賀らしいC C R Cを構築していければと考えている。

(2) 交通ネットワークについて

【守山市提案概要】

- 国道1号線、8号線、161号線は基本的に片側1車線のため慢性的に渋滞し、そこにつながる県道や市道にも渋滞が広がっており、スピードを上げてバイパス整備等に取り組んでもらいたい。
- 県として広域の道路ネットワークについてどのように考えているのかをお尋ねし、思いを共有したい。
- 知事は、琵琶湖大橋の有料継続を示されたが、道路整備や料金設定等について具体的な説明がなされておらず、現段階での知事の考え方を伺いたい。

【野洲市提案概要】

- 直轄国道の整備は着実に進んでいるが、県管理道路の整備は進んでおらず、成果が見えていないことから、県として積極的な交通ネットワークの整備をお願いしたい。
- 市長会では、琵琶湖大橋の有料継続は適切であると判断したところだが、これからは、具体的な整備や投資の方針が重要になってくる。期限切れとならないよう、現状を伺いたい。
- 北陸新幹線については、若狭・小浜ルートへの閣議決定や、JR間でのシステムの違い、列車密度の問題等があるが、一緒に戦略を練って積極的に議論したい。

【知事発言概要】

- 道路整備の事業進捗は厳しい状況であるが、アクションプログラムに基づいた道路整備を着実に進めていくために、市町の皆さんとしっかり連携していきたい。
- 琵琶湖大橋については、耐震化や関連道路整備が必要であるとして、有料継続を県議会に提案し御理解をいただいたところであるが、今後の整備予定や料金体系等について詰めの検討をしている。
- 北陸新幹線については、滋賀の将来を変えるであろう重要な問題として取り組んでいる。米原ルートは、時間面、コスト面、波及効果面から最大の効果が得られるものとして最適と考えており、関西広域連合で考え方を共有している。

○昭和48年の小浜市付近とされた閣議決定の経緯は詳しく承知していない。並行在来線の問題もあり、JR西日本の意向を踏まえることも必要。沿線自治体や経済界と連携して取り組むこととし、今後もこういった議論の場を持ちたい。

【市町長発言概要】

- 近江鉄道について、通勤・通学者が使いやすいようなグレードアップを考えられないか。まちづくりの面から近江鉄道の位置づけを考え、県にスポットを当てて見てほしい。JRへの乗り入れなども考えられる。
- 南北に伸びている国道8号・名神高速等の県の縦の線をつなぐ道路整備に積極的だが、これらの道路につながる横の線を強くすることが、滋賀を強くすることにつながる。
- 県域を越えた人の動きを考慮して、福井県、岐阜県、愛知県との関係を支えてもらいたい。
- 新幹線新駅が中止された経緯から、新幹線に関しては、県がどれだけ責任をもっていくのかかが問われる。
- 北陸新幹線の米原ルートによる県発展のビジョンを示していくことが重要である。
- 北陸、中部との関係から、自ずと米原ルートになるように持っていけないのではないかと。並行在来線の問題など、いずれにしても覚悟が必要である。
- 以前大津市と高島市が湖西ルートを主張していたが、湖西線が並行在来線とならないようにお願いしたい。

【知事発言概要】

- 近江鉄道については広域にまたがる問題であり、県が間に入ることが効果的であることから、関係市町の皆さんと検討の上、相談してまいりたい。
- 道路整備については、国へも足しげく通い、出来るだけ市町の要望が聴き入れられるよう心を砕いている。市町の皆さんと一緒に国へ要望活動も行っていきたい。
- 滋賀県は関西圏だけを向くのではなく、北陸圏と中部圏との結節点であるということをもより強く意識し、県として戦略をもって新幹線の議論をしていきたい。
- 北陸新幹線のルートについては、第4のルートが提起される可能性も排除できない。並行在来線の問題については、覚悟を求められる話であり、JR側から過大な提起をされる可能性もある。新幹線整備によって、在来線のダイヤが減るといったことが無いように取り組んでいきたい。

（3）国民健康保険の都道府県化について

【野洲市提案概要】

- 平成30年度からの国保運営の都道府県化が実施されることとなり、県が新たに保険者として国保財政の責任主体となるが、二重行政とならないよう県の取組をお願いしたい。
- 県は「国の方針が決まってから検討する。」としているが、今から、市町の現場を見ながら、県がリーダーシップをとって検討してもらいたい。

【知事発言概要】

- 地域に密着した事務については、住民に一番近い市町で実施いただくことが合理的であると思うが、二重行政等の問題については丁寧に議論し、保険料率についても、市町の意見をお聞きしながら慎重に対応してまいりたい。

【市町長発言概要】

- 県が財政運営の責任主体となることから、自分の腹を痛めてでもやるという覚悟を期待している。
- 市町間での保険料率の違いについて、それぞれの市町の実情を踏まえて、負担のあり方を考える時期にきている。
- 地域間格差を是正しながら平準化することが重要であり、共通する市町事務の統合や、市町から県への事務委託など、滋賀モデルを考えてもらいたい。
- 一般会計からの繰り出しにより保険料を補てんしている市町もあるが、改善の道筋は見えていない。
- 検討協議会は、ブロック単位の代表市町が参加する形式であるが、全19市町が参加して議論すべきである。

【知事発言概要】

- 大きな課題であると認識しており、将来に禍根を残さないよう、市町の皆さんに納得いただけるよう協議していきたい。
- 全てを県が実施することはできないが、どこまで県としてできるのか、協議会に全ての市町に入ってもらったことも含めて持ち帰って検討し、相談させてもらいたい。